

活動記録簿

会派・議員名

無会派 黒田 実

年 月 日	令和6年3月～			
目的・内容・結果等	市政を市民の皆さまにお伝えするために、市政報告書を作成し、市内に配布。			
活動に要した経費	行 先	利用交通機関	利用区間	金 額
				円
				円
				円
				円
				円
	小 計			円
	経費内容	金 額	内 訳	
	報告書作成	195800円	28000枚 消費税	
	配布	165000円	25000枚 消費税	
		円		
		円		
		円		
	円			
	円			
小 計			360,800円	
合 計			360800円	
備 考				

有価証券作成一部

領収証

No. 登録番号

黒田実様

★ 4360,800-

印刷・ポスター代として

内訳				
現金				
税率	%	税率	%	
金額(税別)		金額(税込)		
消費税額等		消費税額等		

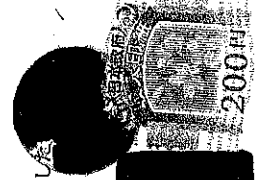
入金日 R6年3月25日 上記正に領収いたしました

株式会社 リヤ

代表取締役 柳野

〒576-0051 大阪府交野市倉治6-21F2

TEL 080-4985-5242



登録番号T5120001260956

御請求書

黒田実様

(株)リヤン
 〒576-0051
 住所 大阪府交野市倉治8-21-2
 TEL 080-4985-5442
 登録番号T5120001260956

下記の通り、ご請求申し上げます。

単位:円

品名	数量	単価	金額
1 チラシ印刷代 28000枚 折加工込み	1	¥148,000	¥148,000
2 データ作成費	1	¥30,000	¥30,000
3 ポスティング代金	25000	¥6	¥150,000

備考:28000枚印刷し、25000枚を弊社にてポスティング。残り3000枚を黒田様にご納品。

支払い方法	現金にて
発行日	令和6年3月20日

	¥328,000
	¥32,800
	¥360,800

全力で 交野を 一歩前へ

市会議員(前交野市長)

黒田 望 くるの

NEXT もう一度皆さまとともに CHALLENGE

確かな未来の予測

- これから高齢社会のピークを迎える
- 現役世代が着実に減少していく
- ⇒労働力など社会を支えるマンパワーが減ることで、様々な社会問題が見えてきました。
- 市役所や文化施設など公共施設の老朽化
- 上下水道・道路などインフラの老朽化
- ⇒老朽化対策には多額の費用が必要となります。

だからこそ、前に進まなければならない

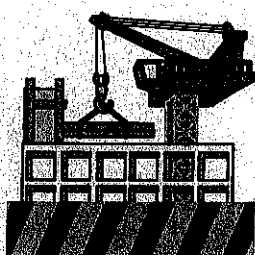
- 昨年秋、多くのご支援をいただき、再び市政の場へとお送りいただきました。
- このまちを次の世代に引き継いでいくために、
- 課題を先送りにしない市政
 - 後退しない市政(未来を見据えた市政の推進)
- の実現に一貫して取り組んできました。これまでの経験をフル活用しながら、皆様とともに全力で交野を一歩前へ進めて参ります。

現市長の公約 進捗チェック (課題を先送りせず、後退しない市政のために)

Check! 「小学校・中学校別々に整備」について

⇒ × (すでに公約違反!)

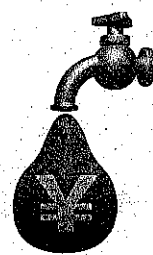
予算の提案者は市長です。
昨年度に続き、令和6年度の予算も施設一体型の学校を整備する内容でした。来年の春開校に向け、建設工事も進んでいます。



Check! 「水道料金値上げ凍結」について

⇒ × (すでに公約違反!)

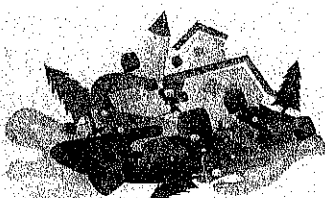
条例の提案者は市長です。
昨年12月の議会に水道料金を改正する条例が提案され、令和6年4月から平均で約16%値上げとなります。
⇒詳細は中面をご覧ください



Check! 「庁舎は移転せず耐震化」について

⇒ ? (多くの課題あり)

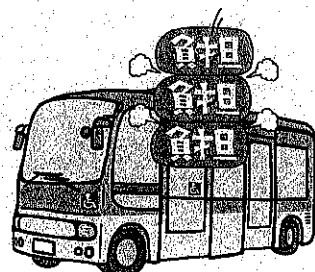
大地震の際、周辺道路は狭く、庁舎にたどり着けない可能性があります。また、老朽化が進んでいるため、近い将来建替えなければなりません。
⇒詳細は中面をご覧ください



Check! 「コミュニティバスの導入」について

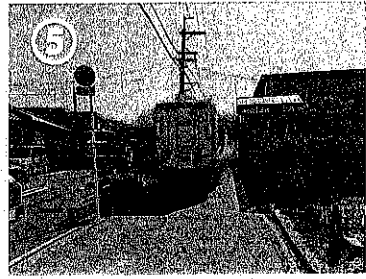
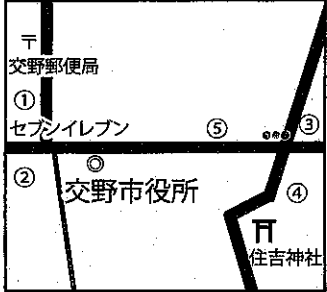
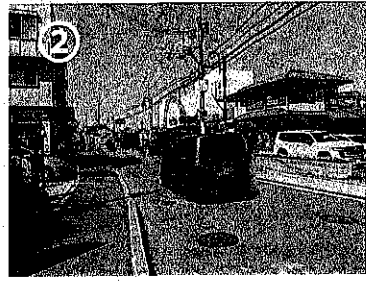
⇒ ? (多くの課題あり)

路線バスの撤退が大いに想定され、全市的に運行すれば、大きな市の負担が必要になります(単純に比較できませんが、他市を見ると毎年1億円以上を負担)。



市役所周辺の道路事情

これまで道路拡幅の計画はありませんでした。車がスムーズに離合できず、多くの区間は歩道も設置されていません。



広い幹線道路に面していれば
⇒普段の暮らしにおいて便利
⇒災害時のアクセスも確保



災害時のリスク①(立地場所の課題)

庁舎が建つ場所(立地場所)に大きな課題があります。本庁舎付近は道幅がせまく、大型車両の侵入もできません。(駐車場が狭いこともリスクとなります)大地震によって道路そのものの被害だけでなく、沿道の家屋が倒壊することで通行ができなくなることを十分想定しなければなりません。付近の道路が長期間通行できなくなれば、建物があっても庁舎機能は果たせません。

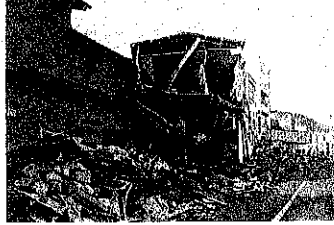
災害時のリスク②(耐震性の建物)

本庁舎は耐震化されておらず、地震による倒壊の可能性があります。道路や下水道などインフラに関わる部署が入る別館は耐震工事をしていますが、災害直後の応急対応だけでなく、復旧・復興にむけた膨大な災害業務をこなすために、別館では極めて不十分です。

建物被害 全壊 半壊 約2900棟

(交野市地域防災計画の被害想定)

想定地震	南海トラフ巨大地震 (冬の夕刻)
地震の規模	マグニチュード(M) 9.0~9.1
計測震度	5弱~6強
建物の被害	全壊351棟 半壊2582棟
死傷者数	死者7人 負傷者211人
避難者数	1643人 (内 避難所生活者数986人)

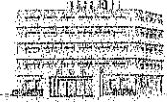


※写真はイメージです

組織・機能の分散

現在、本庁舎・別館・青年の家・ゆうゆうセンターと4施設、目的ごとに違う庁舎に行く必要があり、ワンストップサービスになっていません。

- ◇税・住民票・国民健康保険など ⇒ 本庁舎
- ◇道路・河川・下水など ⇒ 別館
- ◇学校教育・文化・歴史など ⇒ 青年の家
- ◇健康・介護・障がい福祉など ⇒ ゆうゆうセンター



主要な施設の老朽化

本庁舎については、そもそも老朽化が進んでいます。耐震化や改修を行っても、近い将来建替えが必要になります。

その他 借地

本庁舎・別館エリアは、年間1000万円以上の費用がかかっています。

改善の方向性

防災拠点としての庁舎整備

- ・現敷地からの移転、建替え
- ・防災拠点としてふさわしい敷地と庁舎機能の確保
- ・庁舎機能の集約化・分散解消
- ・接道の改善による防災性、アクセス利便性の向上 など

地域活動拠点としての庁舎整備

- ・市民が集まる活動拠点としての庁舎
- ・市民が日常的に集まることのできる機能の複合化
- ・市民交流拠点として様々なイベントが開ける場の確保 など

移転整備の必要性

- ・老朽化が進んだ建物を長寿命化しても、近い将来建替えをする必要があり非効率です。
- ・本庁舎の現敷地での建替えは、第一種中高層住居専用地域のため、庁舎(事務所)の建築ができないこと、侵入道路の大型車規制の影響や仮設庁舎などのため建築コストが多額となること、などを踏まえると現敷地での建替えは、適当ではありません。

今後、老朽化した庁舎はどうなるのですか？

移転や建替えは財政的に現実的ではない、という理由で現市長は「移転せず耐震化」を公約としています。市役所は市民の皆様の暮らしを支え、災害時には命と財産を守る大切な施設です。

基金の活用で建替えは可能

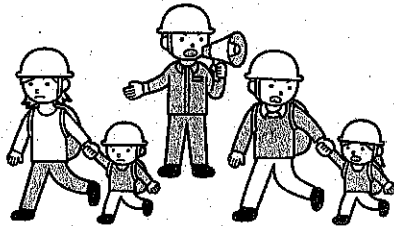
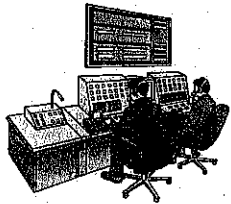
公共施設の老朽化対策などに備えて、これまで市は基金(貯金)を積み上げてきました。今後の財政見通しは決して楽観できるものではありませんが、国から財政健全化団体に指定されるなどの状況にはありません。基金を活用しながら庁舎を建替えることは可能です。

命・暮らし・地域経済を守る投資

近い将来、大地震が起こる可能性が高まりつつあると言われています。建物が倒壊しなくても庁舎にアクセスできなければ庁舎機能は果たせません。

人命救助や避難対策など災害直後の対応だけでなく、インフラなどの復旧やまちの復興にも相当の労力と時間がかかります。復旧・復興が遅れると、暮らしや経済活動などまち全体の損失となります。

市は「周辺道路の拡幅」や「防災指令センターの設置」を検討するとしていますが、その中身は全く示されていません。財政を最大の理由にしていますが、想定費用も明らかではありません。



近い将来、建替えが必要

そもそも老朽化が進んでいるため、現庁舎の耐震化などを行っても、近い将来建替えなければなりません。耐震化は建替えに比べ費用負担が少ないとはいえ、中・長期的には、効率的・合理的ではありません。

今後、移転は避けられない

現敷地は、庁舎(事務所)の建築ができないこと(第一種中高層住居専用地域)、侵入道路の大型車規制の影響や仮設庁舎などのため建築コストが多額となることなど、いずれ現在の場所からの移転を考えていかなければなりません。

20~30年の課題先送り

耐震化で費用が抑えられたとしても、防災上のリスク解消やワンストップサービスによる利便性向上ははかれません。コスト比較だけでなく、市民の皆様の利益・メリットを踏まえた政策でなければ、課題は先送りとなり、市政の停滞になります。

	建物リスク	立地場所リスク	施設分散
移転・建替え	改善	改善	改善
耐震化・改修	改善	×	×

将来にわたって安全・安心な水道水

水道の課題

長い年月の中で自然の力により浄化された地下水を自然ろ過方式で浄水処理した水道水は、交野市の自慢の一つです。

老朽化した水道管

水をつくる浄水場はすでに新しくしましたが、これからは各ご家庭に水を安定的にお届けするために、老朽化した水道管を順次入れ替えていかなければなりません。

水道使用量の減少

K道事業の基本は使用量に応じた水道料金でなりたっていますが、少子化、すなわち将来世代の減少や高齢化で、今後、K道の使用量は減少していきます。



今後の対策

基幹管路の耐震化

水道水は浄水場から高いところに設置している貯水池にくみあげ、そこから各ご家庭にお届けしています。貯水池につながる管路が地震などで破裂すると多くの世帯に影響がでます。大切な水を安定的に供給するために、基幹管路の耐震化など必要な事業を計画的に進めていかなければなりません。

収支のバランス

水道事業の費用に対して料金収入が下回れば基幹管路の耐震化など必要な事業を進めていくことができません。住民誘致や企業誘致による料金収入の確保や業務の効率化をはかる一方、収支のバランスを皆さんで考えていく必要があります。

Q. 「水道料金の値上げ凍結」はどうなるのですか？

A. 昨年12月の議会に水道料金を平均で約16%値上げする条例が提案されました。条例の提案者は市長です。水道管の入替や耐震化は、安心して暮らすために必要なことです。現役世代の減少や高齢化による料金収入の減少を現実として受け止め、安全で安心な水道のために、収支のバランスを皆さんで考える時期にきています。これは、全国的な課題です。

「値上げ凍結」⇒「値上げしない」と受け取れる公約は有権者にとって耳ざわりのよい公約ですが、この4月から値上げされますので、事実上の公約違反ということになります。安心して暮らしていけるまちを将来世代にしっかり引き継いでいくためには、皆様の負担に関わることもつまびらかにしていくのが市長の立場です。

Check!

市長の「月額報酬30%カット」について

→トータルで30%減額ではありません

条例改正の中身

市長の報酬は条例で定められています。
改正前の条例の額は月額74万2500円

①条例の額をいったん引き上げ
74万2500円⇒90万9000円

②引き上げ額から30%カット
90万9000円⇒63万6300円

現市長が「月額報酬30%カット」と報じているのは②の部分のみ。引き上げた説明はありません。

条例改正の一部しか伝えておらず、いわゆる「切り取り型の発信」と言えます。

毎月の支給額は約11%の減額

条例の額に10%の地域手当が加算されたものが月々の支給額となります。

改正前 81万6750円
改正後 72万7200円
約9万円、率にして約11%の減額

期末手当は22%の増額

年に2回支給される期末手当については、30%の独自カットは全く反映されません。

1回分改正前 208万2712円
改正後 254万9745円
約46万7千円、率にして22%の増額
(年2回分では約93万円の増額)

年間では約14万円の減額

月々の給与と期末手当の合計では、約14万円の減額。以前(改正前)と比べて、30%減額にはなっていません。

Action 交野の自然 里山を守る

山の恵みを受けて暮らす

交野市は、面積の約半分が山地です。
○身近にある山は新鮮な空気の供給源
○山に降った雨⇒地下水を利用して⇒水道水
私たちは山の恵みを大きく受けています。

大切な里山保全活動

人が山に入る機会が減ると、結果、里地の畑・田んぼがイノシシに荒らされるなどの被害も増えてきます。また、山中の枯れ木や倒木を放置しておく、土砂災害の被害はさらに大きくなります。

活動にはマンパワーが必要

山の活動は、平らな場所での作業ではなく、また、伐採した木を運び出すには人手が必要です。

自然を守る 暮らしを守る

高齢化の影響はすでに各分野の活動にも及んでいますが、豊かな自然を守ることは、私たちの暮らしを守ることに繋がります。里山保全是、地域やボランティアの活動にゆだねるだけではなく、交野市の行政課題のひとつとして取り組むべきです。



プロフィール

自己紹介

出身:奈良市
誕生日:1969年7月13日
血液型:AB型
趣味:野球、ソフトボール、スキー
好きな映画:フォレストガンプ、千と千尋の神隠し
好きな飲み物:緑茶、コーヒー
尊敬する人物:父、上杉鷹山
好きな言葉:「笑門来福」
好きな観光地:海より「派(温泉があれば最高!)

経歴

1969年7月13日奈良市生まれ
ヴィアートル学園洛星高校卒業、京都大学農学部中退
国会議員・府議会議員の秘書として政治の現場で研鑽を積む。
2003年 交野市議会議員初当選(以降連続3期当選)
2008年 交野市議会副議長
2012年 第42代交野市議会議長
2014年~2022年 交野市長
2023年 交野市議会議員

詳しくはこちらのQRコードで簡単アクセス

